

学び
18

お父さんごろうさんです

～識字学級に学ぶ～

グループ討議 30分

【学習のねらい】

差別のために学校へ行くことが出来ず、文字を学ぶ機会を奪われた女性が、識字学級で文字を学ぶことによって家族との心温まる交流を深め、大きな喜びと自信を獲得した姿から、学ぶことの意義や尊さを感じとり、その権利を奪われてきた差別の不当性を理解する。

【準備するもの】

- ・ 筆記用具
- ・ ワークシート
- ・ 歴史資料等

【進め方】

- (1) ワークシートを読みながら、グループで自由に感想を出し合う。
- (2) 必要に応じて、次の視点でグループ討議を行う。
 - ・ 「なぜ私たちは文字を覚え、学ぶのか」について。
 - ・ 二つの手紙に込められた女性の思いについて。
- (3) それぞれのグループの話し合い結果を発表し合う。



【留意点】

- (1) 文字を学ぶことは、単に生活の不便さを解消するだけでなく自分に自信をもち、人間らしい生き方を獲得する「人間をとりもどす」ことであることを理解し合う。
- (2) 「読み書きが出来ないことを恥ずかしいと思いつけてきましたが、識字学級で学ぶことを通して、読み書きが出来ないことは、差別の結果であり、決して恥ずかしいことではない」と思うようになったこの女性の思いや、「我老いて習い覚えた読み書きは、夜空に輝く星の如し」と、うたった他の識字学級生の思いを考え合いながら、人としての基本的人権を奪ってきた部落差別の事実を理解し合う。
- (3) 近年各地でボランティア等による、在住外国人に対する識字学級（日本語教室）が開かれている。こうした方々の体験を交えながら、学ぶことの意義を理解し合う。

お父さんごく
ろうさんです
レイローコ（冷蔵庫）の中に
いかのさしみが有り
ますから見て
たべて下さい
※小さなメモ用紙を使って書く

からだのれんだく（連絡）です
かきぎわ（は）二十三日ヨオビ（曜日）にほきやで六時半
はくさんじんざ（白山神社）の
※左の行から読む
※スーパー広告用紙の裏に大きな字で書く

お父さんごころうさんです

七十七歳になる女性が、識字学級に通い、鉛筆が折れるほど強くにぎりしめて文字を習いました。

そして夜遅く帰宅する娘婿に、メモを書きました。

お父さんごころうさんです
 23日14時
 午後六時

1993.9

はくすえじんざめ
 かいゴわ
 からたれんぞくです

1991.9

同和問題